

會津能楽會會報

第11号

発行者
會津能楽會
責任者
湯田眞佐弘
〒969-5311
南會津郡下郷町
大字豊成字倉241



さしまぎまな能

会長 湯田眞佐弘

飯豊連峰の峰々が白くなりました。暖冬といわれていた今冬ですが、節が来ればやはり会津らしい景色となりました。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行され、個人の責任において防染に努めることとなり、ようやく日常に戻ってきた感じがします。私達の「会津能楽会」も令和四年より春・秋の演能会・薪能が開催できるようになりました。しかし、このコロナ騒動によって受けたダメージは極めて大きく、会員数が激減してしまいました。そのため今年三回実施してきた演能が令和五年から秋の演能を断念せざるを得ない事態になりました。長い伝統が時代の変化に応じて変わるのにはやむを得ないこととは思いますが、寂しい限りです。こうした衰えは私たちの会津能楽会だけでなく、世の中の様々な組織において同様の嘆きを耳にいたします。停滞したこの数年の傷みから完全に復旧するには失われた年月以上の長い回復期が必要なかもしれません。こうした状況の中にあつて、現会員の方々、止む無く退会されていった方々、それぞれの

気持ちや想いをやらすにはおれませぬ。謡・能に繋がってこられた長い年月、皆さんには様々な人生の曲折がありであつたらうと拝察いたします。子供を育てあげ、かけがえないひとを見送られ、独り暮らしを余儀なくされたひと、大きな病に伏し九死に一生を得て生還されたひと。振り返ると、辛かったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、いろいろな場面が浮かんできます。一日のおわり夕暮れの仄明かりのなかで独り菜を刻む時間帯がほんとにさびしく悲しいとため息を吐かれた独り暮らしの老いた御婦人の会員もおられました。言葉にこそ出されませんが、そのため息の胸の底には能の世界に繋がっていることよつてそのさびしさかなしさに耐えられたという文脈が読み取れるように思われました。

会員こそ少なくなりましたが、能の世界に繋がっている会員の皆様のひとりひとりの事情とそれに伴うさまざまな想いを大切にしたいと念じております。



- 2 3 演能の記録(4年度)
- 4 5 演能の記録(5年度)
- 6 7 育成委員会の活動
- 8 演能記 観桜吟
- 9 ~会津の謡曲古跡~
- 10 哀悼
- 11 グループ紹介
能楽会動向
- 12 役員名簿
その他情報
編集後記

演能の記録

— 令和四年〜令和五年 —

令和四年

春の演能

五月二十九日(日) 十一時始
会津能楽堂



| | | |
|------|-----|-------|
| 囃子 | 前シテ | 大野 篤 |
| 大鼓 | 後シテ | 平山 昇 |
| 小鼓 | ワ | 新井田 大 |
| 折笠 | キ | 坂内 庄一 |
| 成美 | | 坂内 庄一 |
| 佐藤 仁 | | 折笠 成美 |

地謡 長澤 豊 鈴木 圭介

一条 正夫 山垣 正英

後見 佐藤ヨシカ 角田久美子

松井 恒子



第三十四回

会津鶴ヶ城新能

九月二十三日(金・祝)
十七時三十始
会津能楽堂

「羽衣」



| | | |
|-------|-------|-------------|
| 囃子 | シテ | 山垣美枝子 |
| 大鼓 | ワ | 鈴木 圭介 |
| 小鼓 | ワ | 深谷 信也 |
| 折笠 | ワ | 深谷 信也 |
| 成美 | ワ | 深谷 信也 |
| 正夫 | 太 | 一条 正夫 |
| 佐藤 仁 | 笛 | 佐藤 仁 |
| 遠藤ヨシカ | 地謡 | 遠藤ヒロ子 佐藤ヨシカ |
| 栗城 幸子 | 渡部 静子 | 栗城 幸子 |
| 秋本 征子 | 堀 篤子 | 秋本 征子 |
| 増井 典子 | 平山 昇 | 堀 篤子 |
| 佐藤かよ子 | 後見 | 堀 篤子 |
| | 司會 | 平山 昇 |
| | 解説 | 佐藤かよ子 |



「羽衣」のシテを

務めて

山垣美枝子

一年以上も経過しましたが、私にとつてこの上ない舞台経験になったことを有難く感謝する思いが、また込み上げてきます。

六月も終わりの頃、能楽会の予定変更の事情からお話を頂きました。

七月末に佐渡の舞台があり、逡巡しましたが、「羽衣」という気安さからお引き受け致しました。

稽古を積むほどに天人の心情、人間の心、語られる言葉や謡、型など、能の表現の奥深さの一端に微かにふれるような思いが致しました。羽衣の曲に馴染むほどに稽古も楽しさが増してきました。そんな所で時間切れ、稽古不足を思いながら薪能当日を迎えました。

秋の演能

十月十六日(日) 十一時始
会津能楽堂

「東北」

前シテ直前に体調不良で半能



| | | | |
|-------|-------|-------|------------|
| 後見 | 地謡 | 囃子 | 後シテ |
| 佐藤ヨシカ | 長澤 豊 | 大 鼓 | 堀 篤子 |
| 増井 典子 | 一条 正夫 | 小 鼓 | ワ キ 山垣 正英 |
| | 星 英男 | 松井 恒子 | ワキヅレ 新井田 大 |
| | 上野 正義 | 坂内 庄一 | |
| | | 星田 光子 | |



観世流素謡「船弁慶」



装束はきつちりと付けられ待機、小さめに作った面当が低くなった感じで、面と顔の間の空間がなく、面が顔にぴったりと張りついた感じになってしまいました。係の方が何度も声掛けをして下さいましたが、もう直前のように思えて、「大丈夫」と自分を納得させていました。

橋掛を予定通り渡り切り切りました。ワキの腰のあたりが目線になり、随分低い位置になっていました。羽衣を受け取り後見座へ行く頃は足元しか見えなくなっていました。面を直していただきましたが、変わらずで、舞うしかありません。必死に笛の音を手練り寄せようと無心に聴き入りました。その瞬間一切が消え、笛の音と虫時雨が一体となった宙に溶け込んでゆくような感じを受けました。この神秘的な空間にどれほどの刻が流れたのか。ふつと囃子方の力強い掛け声響き渡る音、笛の節、羽衣の世界へと。「力を尽くして最初の場所へ戻ること。」耳元の声。囃子に励まされ、地謡に安堵し、止め拍子を踏み橋掛をお幕をめざして舞い終えることができました。皆々さまにただただ感謝申し上げますばかりです。

令和五年

春の演能

五月二十八日(日) 十一時始
会津能楽堂

「西王母(半能)」



| | | | | |
|----|------|----|----|----|
| 囃子 | シ | テ | 秋本 | 征子 |
| 大鼓 | ツレ | レ | 村越 | 洋子 |
| 小鼓 | ワ | キ | 船木 | 真一 |
| 太鼓 | ワキヅレ | 猪俣 | 隆二 | |
| 笛 | | | | |
| 佐藤 | | | | |
| 仁 | | | | |
| 一条 | | | | |
| 正夫 | | | | |
| 成美 | | | | |
| 坂内 | | | | |
| 庄一 | | | | |



| | | | | |
|----|----|-----|----|-----|
| 地謡 | 二瓶 | 敦子 | 齋藤 | 令子 |
| | 遠藤 | ヒロ子 | 佐藤 | ヨシカ |
| | 山垣 | 美枝子 | 栗城 | 幸子 |
| | 渡部 | 静子 | | |
| 後見 | 上野 | 正義 | 堀 | 篤子 |



お役をいただいて

村越 洋子

会津能楽会に入会させていた
き、まだ新参者ですが、この度、春
の演能会で「西王母」の子方とい
う御役をいただきました。ありがと
うございました。

退職後、この世界の西も東も分か
らぬまま、謡と仕舞のご指導を受
け、今日にいたっておりますが、ま
だまだ自信がなく、所作に迷うこと



舞囃子「桜川」

が多く、熱心に教えていただいた先
生方には申し訳ないばかりです。と
は言え、今も続いているのは、先生
方や先輩方そして共に励む皆様方
のおかげと感謝しております。

そのような中で、今回お役をいた
だき、ただただ先生方のご指導や先
輩の方々からのご助言に導かれ、会
津能楽堂の舞台に立つことができました。
特に、シテ方に歩を進め桃の
載った玉盤を渡す場面は、タイミン
グ等細かい確認をしていたいただきま
した。春にふさわしいめでたい能を味
わうまではいきませんでした。そ
のような経験をさせていただいたこ
とは大変貴重であったと感謝申し上
げます。今後も一層精進を重ねてい
きたいと思っております。

第三十五回 会津鶴ヶ城新能

九月二十三日(土・祝)

十七時三十分始

会津能楽堂

「狸々」



シ 船木 真一
テ 新井田 大

囃子 大 鼓 坂内 庄一

小 鼓 松井 恒子
太 鼓 一条 正夫
笛 星田 光子

地謡 深谷 信也 佐藤 仁

渋川 兼三 上野 正義
大野 篤

後見 佐藤ヨシカ 馬場 則子

司会 平山 昇
解説 佐藤かよ子



能楽秋の会

十月二十九日(日) 十一時始

会津能楽堂

能楽会として初めて「能」を行わない秋開催となった。会員数の減少と「新能」から一ヶ月と期間が短いことから、理事会で検討の結果、舞囃子を三番行う事とした。

今まで演能記録として舞囃子は載せてなかったが、これからは曲名と立ち方を記録することにした。

舞囃子三番

「高砂」 堀 篤子

「弦上」 山垣美枝子

「班女」 栗城 幸子

「秋の会」を終えて 思うこと

栗城 幸子

令和五年秋の発表会のお天気は、朝は雨、次第に晴れ、のち曇り。朝九時前からの業者さんのテント設置に始まり、会員一致協力して雨戸を開け、お掃除をして十一時開始。番組の一番目は宝生流男性会員による素謡『竹生島』でした。『竹生島』には思い出がいっぱい。一緒に謡った先輩達お仲間や「竹生島に行ってきたよ」とニコニコしておられた方々のお顔等浮かび、また初めて面をつけさせていただいた弁財天のお役を思い出しました。引廻しのかかった宮の中で出番を待ちながら「そもそもこれは」って言えなかつたら大変と心のなかで繰り返し、「天女の舞」を舞えるかしら…とドキドキでした。

二十代から今までの結構な年月、能楽を支えに過ぎました。悲しいとき、苦しいとき、みんなで謡い、自分を取り戻したことも。時には体調をくずしカバーしていただいたこ

とも…。まわりの方々を支えられた日々でした。

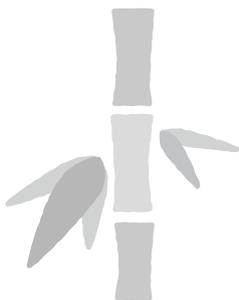
先輩のお言葉を思い出します。

「お勤めを終えても齢を重ねても元気でいられるのは、能楽のおかげよ。先生やお友達と一緒にだから。」

能楽を続け、会津能楽会に入れていただいたからこそ縁をいただいた皆様に感謝いたします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



舞囃子「班女」



| 月・日 | 学校等 | 学年・人数 |
|-----------|---------------|--------------|
| 5・3 | 子ども祭り | (※印は能楽堂で実施) |
| 5・30 | 日新小学校 | ※子供26人 大人37人 |
| 7・6 | 坂下東小学校 | 六年生・59人 |
| 7・15 | 城西小学校 | ※六年生・55人 |
| 9・2 | 東山小学校 | 六年生・90人 |
| 9・8 | 松長小学校 | ※六年生44人 |
| 9・16 | 小金井小学校 | 六年生39人 |
| 10・9 | ワークショップ | 六年生101人 |
| 10・20 | 鶴城小学校 | ※市文化振興財団 |
| 1010・2522 | 謡の実演 永和小学校 | ※六年生42人 |
| 11・2 | 城南小学校 | ※六年生12人 |
| 11・6 | 日本文化に親しもう | ※六年生72人 |
| 111111・9 | 主権 市文化祭運営委員会 | 六年生62人 |
| 111111・15 | 荒館小学校 | 六年生42人 |
| 111111・19 | 一箕小学校 | ※六年生44人 |
| 111111・24 | 能の実演・体験 神指小学校 | 六年生115人 |
| | 主権 博物館 | ※六年生19人 |

育成委員会の活動

庭のいさご～は… 謡いの体験



「能」の概説を聴く



手指の構え



足の運び すりあしの体験

まとめ

平山 昇

育成委員会の令和四年度・五年度能教室実施状況は別表の通りである。表中の能教室を大別すると学校関係とそれ以外の行事(①子供まつり ②日本文化に親しもう ③ワークショップ)に分けられる。学校関係は地理的状况から会津若松市内の学校に集中しているなかで、坂下東小学校のように他地区から時間をかけて能楽堂に来て体験して帰るといふ学校もある。市文化祭運営委員会、市文化振興財団、県立博物館等の主権による、一般人を対象としたワークショップは、体験後、謡いや仕舞を習いたいと申し出るひとあつて手応えを感じる。

| 年 度 | 令和4年 | 令和5年 |
|------|------|------|
| 学校関係 | 14校 | 18校 |
| 学校以外 | 5回 | 4回 |
| 計 | 19回 | 22回 |

令和五年度

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------------------|-------|---------------|----------|----------|---------|---------------------|---------|-----------------------|----------|----------|----------|---------|----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|-------------------|------|
| 11・26 | 11・14 | 11・9 | 11・5 | 11・2 | 10・31 | 10・25 | 10・20 | 10・17 | 10・12 | 10・6 | 10・3 | 10・1 | 9・19 | 9・13 | 9・8 | 7・28 | 7・11 | 6・20 | 5・30 | 5・25 | 5・3 |
| ワークショップ | 神指小学校 | 謹教小学校 | 日本文化に親しもう | 荒館小学校 | 鶴城小学校 | 河東小学校 | 門田小学校 | 城南小学校 | 日新小学校 | 大戸小学校 | 永和小学校 | ワークショップ | 東山小学校 | 松長小学校 | 城北小学校 | 湊小学校 | 城西小学校 | 小金井小学校 | 坂下東小学校 | 一箕小学校 | 子ども祭 |
| 一般人 博物館 | ※六年生 44人 六年生 16人 | | ※主催 市文化祭運営委員会 | ※六年生 50人 | ※六年生 50人 | 六年生 53人 | ※六年生 51人 六年生 68人 | 六年生 59人 | ※五・六年生 15人 六年生 59人 | ※六年生 12人 | ※市文化振興財団 | ※六年生 44人 | 六年生 44人 | ※六年生 62人 | 小学校教員 15人 | 六年生・90人 | ※六年生 93人 | ※六年生・44人 | ※六年生 101人 | ※子供 26人 大人 29人 | |



仕舞「下に居」の構え



初めて能舞台に立つ



一般の人を対象にしたワークショップ



開き

能教室に参加して

佐藤 仁

令和五年度より育成委員として能教室に笛担当で参加するようになりました。小中学校の指導要領のなかに伝統的な日本文化への理解を深め、多様な異文化の共存を認め合う国際人としての人材を育てるという謳い文句から発していることを思えばこのような能楽教室は最適の教材として教育現場においては有り難い機会ではないかと思えます。

代表の平山氏から能楽の歴史を概略説明し、謡、仕舞を実演して謡曲の世界に先ず触れさせます。次いで、能楽の稽古として舞囃子というものがあることを紹介します。舞囃子を聞いてもらったのち、舞囃子を構成する楽器、太鼓、大鼓、小鼓、笛を説明し、舞囃子に合わせて舞を舞うシテが着ける面を紹介して能楽

の講義が終わります。その後、体験に移ります。それぞれの楽器を手に触れ、音を出して実感的に理解を深めます。きちんと正座して列び、小鼓を小さな肩に乗せ「さくらさくら」の歌に合わせてポンポンと打っている姿はかわいらしく、平和な日本の子どもたちの幸せを感じました。子どもたちの一番の気は、面のコーナーです。面のコーナーには人だかりができます。面を着けて思いがけない変顔を遂げる友達の顔をみて驚き、嘆声をあげ、笑いあいます。その中で般若の面が一番人気があります。性別を問うと「女性！」と答える声があちこちから上がって、驚きました。あの恐ろしい形相が女性の業を象徴的に表現したものであることを小学生の年頃で理解しているとは驚きでした。残念ながら、笛は、衛生上体験してもらえませんでした。音が、音色に興味をもってくれた感触はあつたように感じました。最後に、大きな声で謡いを体験し、仕舞のすり足を体験して能教室は終わります。

思春期の入り口に立つ子どもたちが、日本の伝統文化に触れたことが、後にどのような形になって現れるか、予測はつきませんが、小さな胸に幽かな記憶としてとどまり、遠い将来、思いがけない折に浮かび上がってきたなにかの感慨を引き出す、そんな淡い期待を抱きました。

演能記

「猩々」ストーリー

船木 真一

能「猩々」は一場面のみで、拍子不合や見計らいは僅かで、演じる側の負担は小さく、祝言性に富み観る側も易しい曲である。然しながら、祝言（西洋音楽のアンコールピースに該当）として演ずる為にストーリー性が大きく損なわれてしまっている。

能「枕慈童」も事情は同じで、慈童が帝の枕を跨いだ罪で流刑となる陰鬱な前場は金剛流の小書として、穆王（ぼくおう）が釈迦の説法を聴く叙事的で少々退屈なクセは喜多流のみに残存する。では、「猩々」の場合には？ と深掘りしたのが本稿である。

幸にも観世流「大瓶猩々」には前場があり、「猩々」とは幾分背景は異なるが、今風に訳すと、ワキ「親孝行で金持ちに成ったが、先日何処からともなく多数童子が酒を買いに来た。今日も来たら名を尋ねよう。」前シテ「瀋陽の江に住む猩々だ。お前は親孝行だから酒の壺をあ

げよう。」と言つて顔色が赤く成つて人混みに紛れて消えた。（中人）
簡潔ながら複式能としての最低限のストーリー性は確保している。

田中允編『未刊謡曲集』には「猩々前」として複数異稿が掲載されており、続十巻を参考に前シテ登場以降今風に訳すと、

ワキ「お前は酒を沢山呑んでも顔色が変わらないが、名を名乗らないと酒を売らないぞ。」シテ「売つてくれないなら帰るぜ。」ワキ「そう言



わず、ちょっと待て。」地上「仏もなく衆生もないが、実際は人間や畜類の様な六道という隔てがある。私は海中に住む猩々という者だ。ここ揚子江は船が往来し、河水は薬の水であり、汲んでも尽きない。市人よ酒を売ってくれ。」時が経ち、市人

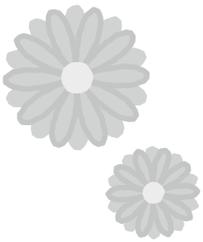
は帰り始めたので、名残り惜しく、猩々は酒樽を抱えて河浪に消えて行った。（中人）

前場にクセは無いが、瀋陽江の風景描写、仏教思想が簡潔に謡われ、後場「此壺に泉を湛え只今返し与ふるなり。」の経緯が明確に成る。

現行五流で中人有りの「猩々」を観る機会は無いと思うが、市の賑いの中でストーリー展開する「岩船」が状況的に近いと思われる。

市人が皆帰り静まった瀋陽江に高風が独り佇んでいると、海中から赤ら顔の猩々が酒樽を抱えて現れ、高風と酒を酌み交わし、猩々は波上を足許よろよると、再び海中へ消えていく。

前後揃う事で、複式夢幻能、むしろ複式妖怪能と呼ぶべきかも知れない独特な演目に成りそうな期待感!!
最後に、演能に携わって下さった会津能楽会の皆様に御礼申し上げます。（二〇二三年十二月十六日）



観能吟

洋子

秋の雨止み能舞台耿耿と

虫すだく城をそびらに薪能

敷石に映る篝火薪能

「羽衣」を舞ふ姉八十路菊の宵

「羽衣」の天女の綺羅や豊の秋

律の風能舞抜け天へ抜け

会津に伝わる謡曲の古跡 熱塩 示現寺と「殺生石」

謡曲「殺生石」の梗概

玄翁和尚は奥州の旅先から道を変えて都へ上る途中、下野の那須の原を通りかかった。ここに一塊の石があるので、近寄ってこれを見ようとすると、一人の女人が現れて、その石へ近づいたもうなと声をかけてきた。和尚は、何故かと問うと、女人が言うには、その石は殺生石といって人間はもとより、鳥獣畜類に至るまで、その石に触れるものは尽く命がないという恐ろしい石である。昔、野干（やかん）の精が玉藻の前と称する美妃に化けて宮中に入り込み、禍をなしたが、陰陽師の安倍泰成に見破られて遂に宮中を逐われてこの原において討ち取られ、その怨霊が凝りてこの殺生石となったものであるという物語をするのであった。和尚はかく委しく語る御身は誰かと問うと、女は昔は玉藻の前、今は那須野の殺生石、その石塊であると明かして石の中に姿を詔隠し去った。

和尚は、不思議なことと思ひ、衣鉢を授けて成仏させようと、扠子（ほっす）を振るいつつ石に向かつて一喝すると、石は二つに割れて、恐ろしい形相をした野干の姿が現れ出て、天竺では塚の神となり、唐土では褒姒（ほおじ）となって姿を現し、我が国では玉藻の前となって禍を為していたが、遂に三浦の介、上総の介の兩人に退治されたことを述べ、その有様を語ったのち、二度と悪事はしないと和尚に堅く誓ってそのまま消え失せた。

この物語の中に語られている玄翁和尚と那須野の殺生石は会津と因縁が深く、喜多方市熱塩町には玄翁和尚が中興したという示現寺と玄翁和尚が打ち砕いたという殺生石があります。

玄翁は嘉暦四年（一二三二）越後国萩村（現弥彦村大字矢作字萩野）に父源頼忠の子として生まれましました。母は、京都五条院の娘。生まれ出たとき、不思議な妙音が空から聞こえ、村人たちは偉い人になるだろうと噂しあつたということです。噂通り、才気あふれた子供として育ちます。五歳を過ぎた頃から、出家したいと言ひ出し、正慶二年（一二三三）父の許しを得て、越後国陸上寺（現国上寺）の小僧となり、一心不



喜多方 慶徳寺

乱に修行に励みます。やがて、十六歳、剃髪して正式に得度した玄翁は各地の高僧を訪ね、学問と修行に精進。天台宗から曹洞宗へと宗旨を変え、総持寺二世峨山韶碩に師事、本格的な仏道修行に励むこととなります。諸国を巡って会津に至ったのは、三九歳、正平二十二年（一二六九）のことでした。巡錫しながらたまたまさしかかった地に神秘的な気配を感じ、この地に庵を結ぶことにしました。それが喜多方市慶徳の地でした。

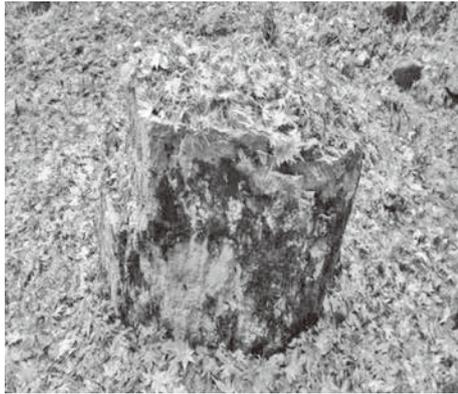


熱塩 示現寺

それが喜多方市慶徳の地でした。やがて、付近を通りかかった会津の領主芦名詮盛（あきもり）が庵の上空に紫雲がたちこめているのを見、玄翁和尚のただならぬ法力に感じ入り堂宇を寄進、寺としての構えを築きました。これが今日の慶徳寺の始まりでした。

玄翁は、その後も諸国をめぐり各地に禅寺を開創し、康暦二年（一二八〇）五二歳のとき再び会津に戻り、永和元年（一二七五）熱塩の地にあつた天台宗の古寺示現寺を曹洞宗に改宗して中興開山しました。その夜、湯が湧き出し、以後この地は温泉地として栄えました。

その後も玄翁は諸国遍歴をつづけ各地に寺を開いてまわり、至徳二年（一二三五）五七歳のとき、那須野が原にさしかかつて、殺生石を打ち砕き本性を現した玉藻の前（九尾の狐）を祈り伏せて神異の僧として広



示現寺境内にある殺生石

く知られることとなりました。このとき、打ち砕かれた石の破片が各地に飛散し、その一つが示現寺に落ちたと言われています。その後、玄翁和尚は、応永七年（一四〇〇）一月七日、七十二歳で入滅しました。

玄翁和尚が砕いた那須野が原の殺生石は、示現寺の他に

①会津若松市河東町八田大野原 夜泣き石

②会津美里町宮林 殺生石稲荷神社 などにも飛来したとして祀られています。

那須野が原の殺生石がなぜ会津に集中して散在するのか、その謎を解明するのは難しいですが、考察の手がかりとして鎌倉時代に会津を領有していた佐原十郎義連との関わりがあるように思われます。義連は源頼朝が奥州征伐として平泉の藤原氏を攻め滅ぼしたとき従軍し、その功績

によって会津四郡（会津・大沼・河沼・耶麻）を与えられました。鎌倉幕府では頼朝の御家人として重用されました。その御家人十一人のなかに小山朝政という人物がおりました。朝政は下野小山の領主小山政光の子として生まれ、父のもとで成長、頼朝に臣従して平家討滅のため尽力しました。

佐原義連と小山朝政は共に鎌倉幕府の重鎮として厚い交流があったものと思量されます。慶徳寺にはこの小山朝政の位牌が安置されております。慶徳にはその位牌を守るといふ伝承を持つ旧家小山家が現存しています。

玄翁が殺生石を砕いたとされる年代から百年ほど前のことですが、佐原氏と小山氏との深い関係があつて下野小山にまつわる殺生石伝説が会津にもたらされたと思像します。因みに小山朝政の父政光は頼朝の乳母寒河尼を後室としておりました。寒河尼は八田宗綱の娘とのことです。殺生石飛来の伝承を持つ河東町八田大野原の「八田」という地名は八田宗綱の八田と関わりがあるように思われます。後考に待ちたいと思います。

山深い熱塩の温泉に浸かってしばし能「殺生石」の世界に浸ってみてはいかががでしょうか。

哀悼

故一条正夫氏を悼む

穏やかに新年を迎えられたと安堵の想いに浸っていた元日の夕方、石川県能登半島を激震が襲いました。二百人を超す犠牲者が出、見るに耐えない悲惨な災害状況が連日報道されています。そんな日々、私たち会津能楽会にも激震が走りました。副会長 一条正夫 氏が帰らぬひととなりました。七十四歳でした。

小倉輝泰師に師事、程なく佐藤ヨシカ師に仕舞を、金春流太鼓を松本章師に就いて修められました。会津能楽会の理事に選ばれ十五年務められ、令和五年から副会長に就かれました。会津はもとより新潟を始めとして金沢などで開催される発表会では、太鼓の打ち手として欠かさない人材でした。

昨年末、肺炎を患い緊急入院、集中治療室で治療を受け、経過は良好な状態で年明けを迎え、一月十日、永眠されました。氏は、三十代で宝生流シテ方

広く農業を営む傍ら、芸道に励むのは、並大抵の苦勞ではなかつたろうと拝察しますが、多忙な農作業をご家族に委ねて稽古や発表の場に参加する心苦しさを「遊ばせてもらっている」という言葉ではにかみながら感謝申し上げる繊細な感性の持ち主でした。また、病み上がりの師に大きな花束を快気祝いとして贈るなどの細やかな気配りをなさる方でもいらつしやいました。

飲むほどに酔うほどに愉快地宴席を盛り上げてくださった楽しいお人柄が、太鼓の音と甲高い掛け声とともに会津の能楽界から永遠に失われてしまったことを惜しみつつ、氏のご冥福を会員一同こころよりお祈り申し上げます。合掌





グループ紹介

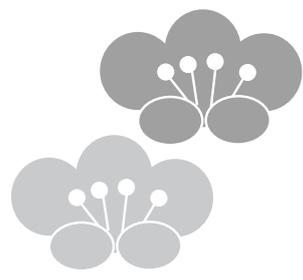
如月会

代表 佐藤ヨシカ

令和四年六月二十八日「輝雲会」主宰の小倉敏克先生が逝去されました。

令和五年一月十七日の会食会の席上にて、敏克先生の御次男であります小倉伸二郎先生が新たに「如月会」として稽古を続けて下さる事になりました。現在会員六名、月一回材木町の「高橋舞台」にて稽古しております。見学も大歓迎です。勿論新入会員も募集中です。

今後共よろしくお願い申し上げます。



和楽会の動き

▽第百二十回和楽会

令和二年四月二十六日(日)

会場 会津能楽堂 午前十時始

参加 七団体

番組

素謡 嵐山他六曲 連吟

西王母

仕舞 東北クセ他八曲

独鼓 幸流小鼓 八島

葛野流大鼓 紅葉狩クセ

金春流太鼓 羽衣キリ

連管 森田流 中之舞

連調 幸流小鼓 草紙洗

▽第百二十三回和楽会

令和五年四月二十三日(日)

会場 伊東舞台 午前一時始

参加 五団体

番組

素謡 兼平他四曲 連吟 鶴亀

仕舞 岩船他五曲

連吟 鶴亀

連調 葛野流大鼓 班女クセ

年一回春に開催をしております和楽会は、コロナ禍の影響で令和二年

に行った後、二年間空白となりましたが、令和五年に開催をできた事、大変嬉しく思っております。

なお加盟団体が減少傾向にありますが、令和六年も開催を予定しておりますので、皆さんにお会いできま

▽役員

会長 佐藤ヨシカ

副会長 栗城 幸子

庶務幹事 坂内 庄一

会計幹事 栗城 幸子

会 長 佐藤ヨシカ

会津能楽囃子会の動き

▽第三十三回会津能楽囃子会勉強会

令和四年四月二十三日(土)

会場 文化センターホール

十二時三十分始

番組

舞囃子 船弁慶前 他七曲

居囃子 須磨源氏

この年の囃子会は素案まで作成したが、国内のコロナ感染者拡大傾向の影響で、実行委員会において中止

を決定した。しかし舞囃子は常日頃簡単に出来ないもので、コロナ対策として広い会場を使い、曲数を減らし勉強会として開催をした。会場が広く見所は少人数で、勉強会の雰囲気を感じとれた。

▽第三十四回会津能楽囃子会

令和五年三月十二日(日)

会場 萬花楼 午前十時始

番組

舞囃子 高砂他十曲

素囃子 鞆鼓

連調 太鼓 胡蝶

仕舞 淡路キリ

年の初めにコロナの感染は落ち着いてとの政府判断で、五月にはコロナの扱いが2類から5類に変更する情報から、通常通りに開催をした。萬花楼は舞台が少し狭いが囃子会の常時使用会場で安心感がある。

今まで書かなかったが、申し合わせは伊東舞台で行っている。会津には能楽堂の他にも数箇所舞台がある良き環境と想っている。

事務局 上野 正義

役員名簿

令和四年二月現在

| | |
|--------------|--------|
| 会長 | 湯田 眞佐弘 |
| 副会長 | 折笠 成美 |
| 理事 | 平山 昇 |
| 上野 正義 (事務局長) | |
| 濱川 兼三 (庶務) | |
| 栗城 幸子 (会計) | |
| 坂内 庄一 (会計) | |
| 佐藤 ヨシカ | |
| 一条 正夫 | |
| 小野木 和子 | |
| 角田 久美子 | |
| 堀 篤子 | |
| 佐藤 仁 | |
| 河合 政弘 | |
| 濱崎 幸子 | |

◎委員会構成 (代表者)

- 演能企画委員会 折笠 成美
- 財産管理委員会 一条 正夫
- 能装束着付部 堀 篤子
- 広報委員会 河合 政弘
- ホームページ作成委員会 鈴木 圭介
- 会報作成委員会 佐藤 仁
- 育成委員会 平山 昇

令和五年二月現在

| | |
|------------|--------------|
| 会長 | 湯田 眞佐弘 |
| 副会長 | 上野 正義 (事務局長) |
| 理事 | 一条 正夫 |
| 濱川 兼三 (庶務) | |
| 栗城 幸子 (会計) | |
| 坂内 庄一 (会計) | |
| 佐藤 ヨシカ | |
| 平山 昇 | |
| 角田 久美子 | |
| 堀 篤子 | |
| 佐藤 仁 | |
| 河合 政弘 | |
| 濱崎 幸子 | |
| 折笠 成美 | |

◎委員会構成 (代表者)

- 演能企画委員会 一条 正夫
- 財産管理委員会 坂内 庄一
- 能装束着付部 堀 篤子
- 広報委員会 河合 政弘
- ホームページ作成委員会 鈴木 圭介
- 会報作成委員会 佐藤 仁
- 育成委員会 平山 昇

「その他」の情報

▼能楽会員の状況

令和四年二月現在 六十名
 令和六年一月現在 五十一名

入会者 二名
 橋本五十雄 竹井亜矢子

退会者 十名

- 渡部マサ子 石田 桂子
- 星 英男 岩淵 健一
- 松尾 幸生 長谷川桂子
- 木村 武晴 小野 久子
- 渡部 妙子 渡部 静子
- 物故者 一名 一条 正夫

編集後記

○第一校があがつてきた夜、突然、

一条正夫氏の訃報が飛び込んできました。驚くと同時にどうしてこんなことが起こるのかというやりきれない悲しみの激情が胸元に突き上がってきました。編集作業はほぼ終わり、委員一同で確認の読み合わせをする段階で、編集後記も書き上がっていたのですが、急遽、追悼記事を加えることにしました。

○会津能楽会にも漸く平常の活動が戻ってきましたが、会員が激減し

たことから、令和五年より秋は演能できない事態になりました。

○演能の記録を中心にした内容を踏襲しましたが、令和五年は「秋の会」と名称を変えての催しでしたので、舞囃子をも記録として残すことにしました。

○令和四年薪能で「羽衣」のシテを舞われた山垣さんの演能記は舞台に立つもののみ知る恍惚と不安が躍如として表現されておりました。

○山垣さんの「羽衣」をご覧になった妹御「洋子」様の俳句を「観能吟」として掲載させていただきました。

○「西王母」で初舞台を踏まれた村越さんの演能記は緊張と胸の動悸が伝わってきました。

○令和五年薪能で「狸々」のシテを舞われた船木さんの原稿は、「狸々」論ともいうべき力作でした。

○令和五年秋の会で突然代役として「班女」を舞われた栗城さんの文章は日頃編集子が思っていることを言葉にしていたできました。

○ご多忙のなか、原稿をお寄せいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、一条正夫様のご冥福を編集委員一同こころよりお祈り申し上げます。

- 佐藤 仁 鈴木 圭介
- 上野 正義 角田久美子
- 増井 典子